

エコってなんだろう？

家庭用「かんきょう」パンフレット その2

本当のエコって？

よく耳にする『エコ』という言葉。そのエコってどんなことか考えたことはありますか？
昔の日本では、エコなことはなかったのでしょうか？
今回は、昔の日本からエコを探ってみましょう。

昔の日本



家族；大家族

暖房；イロリ（炭火）
調理機；かまど、イロリ
照明；ロウソク、ランプ
居住空間；大広間

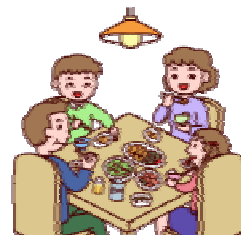


現代の日本



家族；核家族

暖房；エアコン、ファンヒータ（電気、灯油）
調理機；電気、ガス
照明；蛍光灯（電気）
居住空間；各部屋



上の写真から比較すると、いろんなエコが見えてきませんか？

暖房と調理機の双方を備えたイロリは、今はめったにありませんよね。

イロリの前で家族揃って一家団欒、みんなで食事をするのが自然となっていました。

また、大きく異なるのは、昔は電気を使っていない事。電気はクリーンエネルギーですが、電気を作るのに温室効果ガスをどうしても排出してしまいます。そのような観点で比較すると、昔の日本は非常に『エコ』と言えるのではないのでしょうか。

それだけではない、昔の日本のエコ



某小学校のアンケートで、『昔と今の違うところ』の題目で、“昔にはアイロンは無い”という、こどもたちの意見が多数あるのを目にしました。そこで、その『アイロン』について、昔はどうだったのか調べてみました。

ご存知の方もいらっしゃると思いますが、右上写真が昔のアイロンです。中に炭火を入れて、布に押しあて、シワを伸ばします。その下の写真は『こて』といいます。これは着物を糸で縫う際、折り目をつけるときに使うものです。先端を炭火で温めてから、アイロンと同じように使っていました。

昔の人は成長に合わせて、何回か糸をほどき、着物を作り直して、同じものを大事に着ていたそうです。着る物も現代にはない『エコ』だと思いませんか？昔の日本から、何かヒントが得られるといいですね。

